

5月1日 元郷中学校 開校記念日に

5月1日は、77回目の元郷中学校開校記念日です。歴史に重みがあり紙面だけでは語りつくせないのが元郷中学校です。ですが、今日は皆さんと一緒に少しでも、開校77周年を迎える元郷中学校の歴史を振り返ってみたいと思います。

昭和23年4月1日に川口市立元郷中学校開校。川口市立南中学校から分離し、職員23名、生徒547名でスタートしました。開校当時は、南中学校の教室を借りながらの学校生活でしたが、翌24年3月に現在地に移転しました。現在の生徒数は399名です。当時より少なくなりましたが、一番多い時は、1,308名（昭和37年度）と今の3倍以上の生徒たちで生活していた時がありました。

学区域の移り変わりを繰り返し、学校の住所も元郷町1丁目150番地から、現在は、東領家1丁目8番3号に。東領家にある元郷中学校というのも、新たに門をくぐる者にとっては、なんだか不思議でしたが、時代の変遷というものなのでしょう。

校旗は、昭和31年3月に、校歌は、昭和34年3月に制定されました。校歌に歌われ、校章にも使われている“稲穂”は、開校当時、学校周辺は四面を水田に囲まれ、緑多く四季の花々が咲き誇り、稲穂の実る豊かな環境であったからとのこと。学校の周辺の生活が一変し、77年という歴史を感じる一つとなりました。

元郷中学校のシンボルの一つである、聖火台です。昭和33年に歴代のPTA会長の方々により寄贈されました。元郷中学校の聖火台は、国立競技場の約2分の1です。1964年に東京オリンピックで使用された聖火台は、現在新国立競技場に展示されています。「聖火台タイム」「聖火台コース」などの名前も元郷中ならではの名称です。



もう一つのシンボルは、藤棚です。樹木の手入れは根気のいる仕事なのですが、一昨年度手入れを進め、その甲斐あって今年度も健在です。日の光を浴び嬉しそうに花をつけてくれました。昭和56年に現在の藤棚が完成しています。校旗の色も藤色に染めてもらい、毎日校庭の掲揚塔に掲げています。学校色として、藤の気品ある花色に酔いしれたいものです。



今年は、77周年を迎えています。現状に負けず、中学生として毎日学習と健康づくりに工夫して励むことが今の大切な生活です。皆さんと一緒に元郷中学校の誕生の記念日をお祝いしたいと思います。

校長 高田 晶子